



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.81

社会福祉の誕生

保健福祉学部 社会福祉学科

講師 江連 崇



私は主に社会福祉の歴史の研究を行っており、日本における社会福祉の歴史について記述します。

普段生活していると新聞やニュースなどで「社会福祉」という言葉をよく耳にします。詳しい説明は不要かと思いますが、社会福祉は、「人々の生活上の困難や障害、疾病などに対して、社会的に解決する施策」といえるでしょう。では、日本において社会福祉はいつから行われるようになったのでしょうか。ポイントは「社会的に解決する」という部分にあります。

日本では古代から「福祉的活動」が行われてきましたが、現代の「社会的」な福祉活動とは異なり、基本的には血縁・地縁関係にあるものが弱者を助けるというものでした。ですので、社会的に福祉政策を行う「社会

福祉」は近代以降に誕生したものと考えることが多いです。では、なぜ近代以降に社会福祉が生まれた（生まれなければならなかったのか）のでしょうか。

明治時代、日本は「近代化」を目指しさまざまな施策を行いました。教育、司法、産業など、これまでにないスピードで「近代化」していきます。それに伴い人々の生活も大きく変わっていききました。それまでは、農家に生まれたなら「農民」として、商家に生まれたなら「商人」として生活していたかなければなりませんでした。つまり自分の職業は、生まれたイエによって決められることがほとんどだったのです。



ですが明治以降、社会は変化し、政治家や教師、会社員、工場での労働者などこれまでにない職業が次々と生まれ、人々は職業を選べるようになりました。生活するために必要な読み・書き・ソロバンを教える寺子屋ではなく、社会や英語、理科なども教える学校が各地ででき、勉強を頑張り、周りの競争に勝てば自分の好きな職業に就くことが可能となりました。近代を迎え人々は、これまでの封建的なイエ・ムラから解放され、自我に目覚めていったのです。

しかし、競争があるということは、「勝者」と「敗者」が存在することになります。これは職業に関してだけでなく、生活の場でもたくさん競争が生まれました。当然のように競争に「負けた」生活困難に陥る人々も

たくさん生まれました。大都市には貧民窟と呼ばれる地域ができていきます。明治時代には、このような社会的弱者に対して宗教者などが孤児院や障害者施設などをつくり、慈善活動を行っていったのです。



しかし、それはあくまで「個人の活動」であって社会的福祉活動ではありませんでした。そのため、自由で平等な基本的人権を保障する近代国家の仲間入りをしたい日本は、大正時代中期に西洋で行われていた社会福祉を参考にしながら「社会的な福祉活動」を作り上げていったのです。これが日本における「社会的に福祉」を行う社会福祉の誕生といえるでしょう。

大学図書館へようこそ！

大学は9月中旬まで夏季休業中です。長いように見えますが、長期の実習・ボランティア活動・卒論準備・アルバイトなどでむしろ多忙な日々をおくる学生も多いようです。

後期授業は17日から。

また学内に活気が戻ってきます。

【9月の開館時間変更等】

- ・敬老の日(16日)、秋分の日(23日)は休館です。
- ・そのほかは月～土、9：00開館、21：00閉館です。



◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)

大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～

社会福祉の歴史や思想に関する図書を紹介いたします。

『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』 岩崎晋也/著 有斐閣

→「関係のない他者」を援助する仕組みである社会福祉の正当性を、歴史を通して探り出しています。

『日本の社会福祉 礎を築いた人びと』 蟻塚昌克/著 全国社会福祉協議会

→日本の社会福祉の転換期に存在した48人の実践を紹介しています。

『「陰徳の豪商」の救貧思想』 大塩まゆみ/著 ミネルヴァ書房

→江戸時代の豪商たちが困窮者を救済していた史実を発掘しています。

